

はまなすラインだより

発行:PIプロジェクト事務局

《概略計画の公表》

第3回地域懇談会を、9月12日(火)に易国間社会体育館において開催しました。沿道住民、交通・救急・消防及び地域経済団体等の代表の方々に、3つのルート比較案について「防災」「交通」「環境・景観」「土地利用・社会地域経済」「事業性」の5つの視点で評価していただき、概略ルート帯を選定しました。



第3回地域懇談会

第3回地域懇談会の結果

全線バイパス案を概略ルート帯に選定しました

全線にわたって、海岸部に位置する現道(国道279号)とは別路線となる全線バイパス案を概略ルート帯に選定しました。全線バイパス案は、防災評価と交通評価が高評価であり、必要な機能として地域住民から要望意見が多かった「災害時に代わりになる道路」「冬期にも安心して通行できること」に最も適したルートです。

アクセス路5箇所を選定しました

バイパスは、山側の高台を通過するため、海岸部の集落などからバイパスへのアクセス路が必要です。アクセス路は中面の5箇所を予定しています。

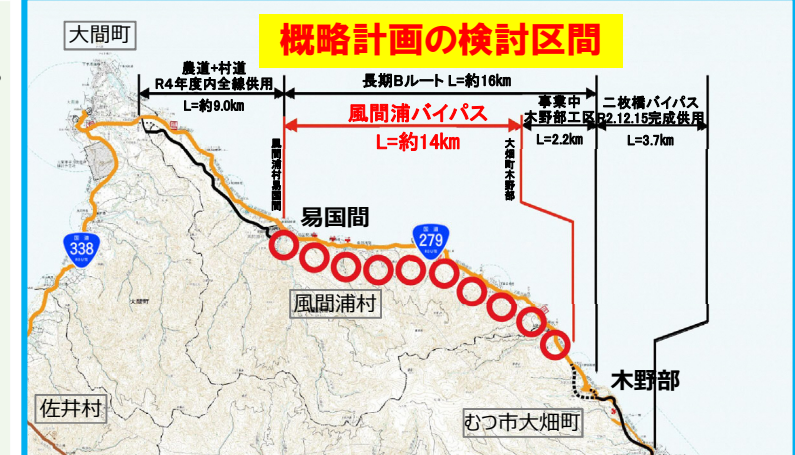
概略計画は、中面をご覧ください。



委員の皆様からのご意見(抜粋)

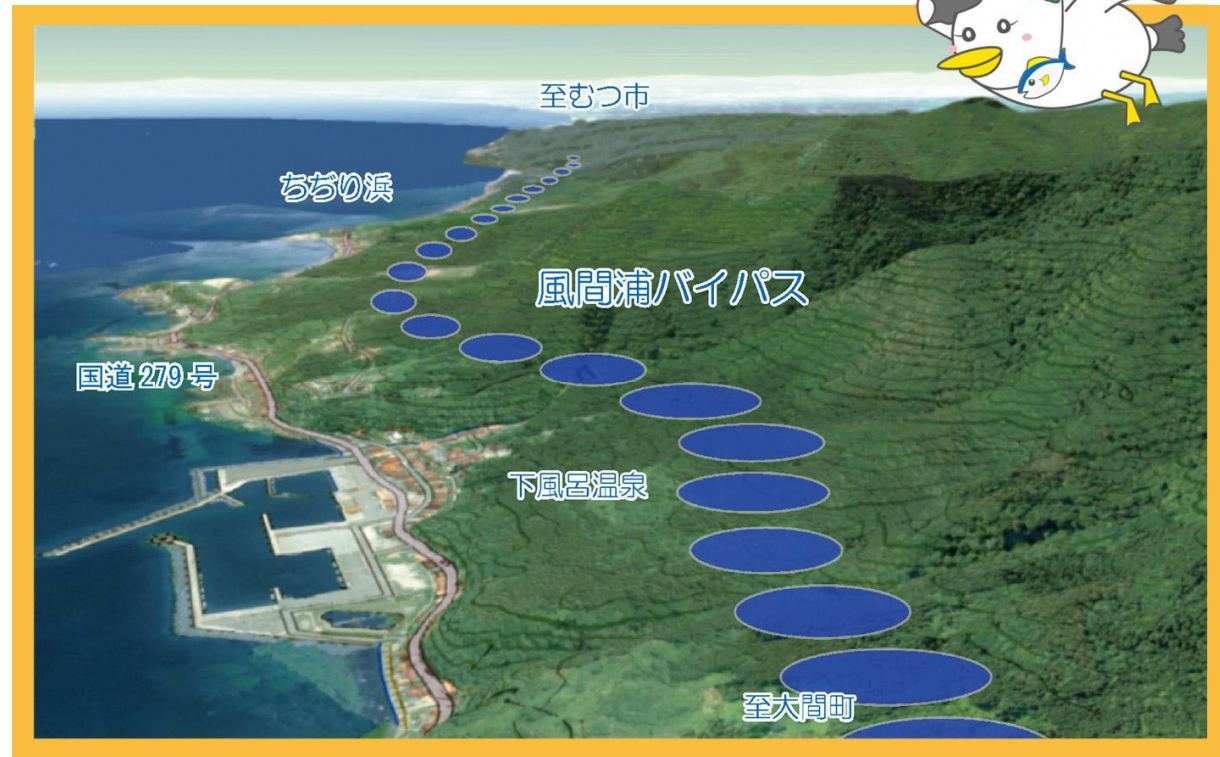
- ・温泉が地下を通っているが、道路整備による影響はあるか。温泉に影響が出るようでは困る。(下風呂自治会)
- ・Aルートがよい。(風間浦漁業協同組合)
- ・Aルートは、安全でもう1本の道路として望んでいたルートだ。避難路は早く実現してほしい。(易国間自治会)
- ・複数の道路があることが大事である。(下北交通)
- ・防災の面からAルートがよい。(下北地域広域事務組合消防本部)

検討区間位置図



電子地形図25000(国土地理院)を加工して作成

全線バイパス案のイメージ図



※この図は、あくまでもバイパスのイメージであり、今後の調査・設計により、詳細ルートの絞り込みを行います。

懸念されることへの対応

課題

尾根や谷が連続した厳しい地形での施工が予想されます。また、周辺環境への配慮が必要です。

課題への対応

専門家へ意見を仰いだり環境調査を実施したりすることで、課題を解決していきます。



お知らせ

国道279号 風間浦バイパス 概略計画PIプロジェクトは、今回の概略計画の公表をもって終了となります。今後は、この概略計画をベースとし、調査設計を進めていきます。

お問い合わせ、ご意見はこちら (PIプロジェクト事務局まで)

- ◎ 青森県 道路課 電話 017-734-9651 風間浦バイパスのホームページは
- ◎ 青森県 下北地域県民局地域整備部 電話 0175-22-1231 こちらから
- 風間浦村役場 産業建設課 電話 0175-35-2111 (代表)
- むつ市役所 企画調整課 電話 0175-22-2111 (代表)
- 大間町役場 企画経営課 電話 0175-37-2111 (代表)
- 佐井村役場 総合戦略課 電話 0175-38-2111 (代表)



風間浦バイパス 検索

《風間浦バイパスホームページURL》
https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kendo/doro/pi-shimokita-hinanro.html

概略計画

起終点

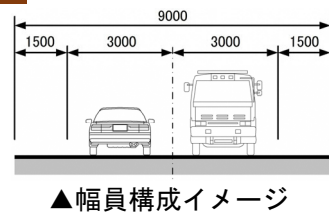
起点は「かざまうらむら いこくま風間浦村易国間」
 終点は「おおはたまちき のつがむつ市大畑町木野部」です。

概略ルート帯

全線にわたって、現道(国道279号)と別路線のAルート(全線バイパス案)とします。(以下、参照)

計画諸元

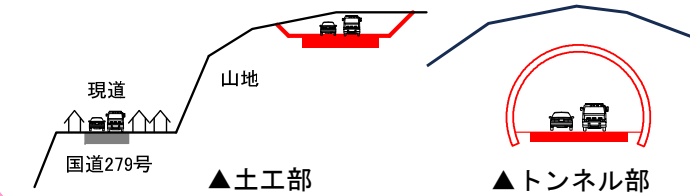
道路延長:約14km
 設計速度:50km/h
 車線数:2車線
 幅員:9.0m



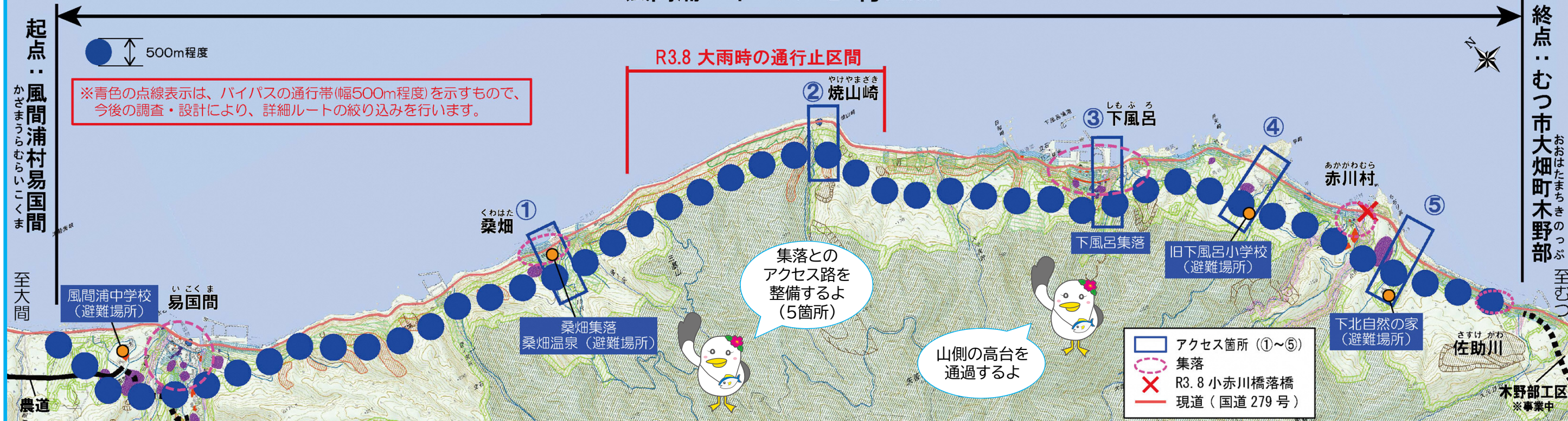
主な連結する道路

- アクセス路(5箇所)
 ①桑畑集落内 ②焼山崎付近
 ③下風呂集落内 ④旧下風呂小学校付近
 ⑤下北自然の家付近

主たる構造



風間浦バイパス L=約14km



ルート比較案の評価

評価方法

評価項目毎の評価結果に基づき、各ルートへポイントを付与します。各ルートの合計評価ポイント数を100点満点に換算した点数で比較評価しました。

評価結果

〈配点〉1位(赤)=2ポイント、2位(黒)=1ポイント、3位(青)=0ポイント
 〈合計〉14項目×2ポイント=28ポイント

分野	①防災		②交通		③環境・景観		④土地利用・社会地域経済		⑤事業性		点数
評価項目(全14項目)	①災害時における安全確保 ②避難路としての機能確保 ③代替路の確保		①走行安全性 ②主要都市間のアクセス ③現道の安全性向上		①景観の保全 ②自然環境への配慮		①既存集落の保全 ②社会経済への支援 ③観光への支援		①事業期間への影響 ②施工時の影響 ③経済性		※28ポイント=100点として換算
Aルート 全線をバイパス整備	災害危険箇所を通過する区間が少ない。	6ポイント	現道交通量がバイパスに分散する。	5ポイント	山林・原野への影響面積が最も大きい。	2ポイント	支障物件数が最も少ない。(31件)	3ポイント	現道の交通制限は不要。	4ポイント	72点 20/28ポイント
Bルート 現道を高上げする案	全区間現道活用のため代替路がない。	0ポイント	カーブ数が最も多く、急カーブもある。	1ポイント	山林・原野への影響面積が最も小さい。	2ポイント	支障物件数が最も多い。(336件)	3ポイント	長距離にわたる交通制限が必要。事業費が最も高価。	0ポイント	21点 6/28ポイント
Cルート バイパス+現道高上案	起点側の連続性は確保可能。	3ポイント	主要都市間のアクセスは現道と変わらず。	3ポイント	眺望地の設置可能箇所が複数ある。	2ポイント	観光地間の移動距離は現道とほぼ同じ。	3ポイント	土工量が最も少ない。	5ポイント	57点 16/28ポイント

概略ルート帯は、総合点が最も高く、「津波浸水想定区域外となる広域避難路としての機能」及び「代替路機能」を有する、**Aルート(全線バイパス案)**に決定しました

※記載の評価結果は、主な評価結果を抜粋したものです。
 なお、詳細な評価結果についてはパンフレット(国道279号風間浦バイパス 概略計画PIプロジェクトの概要)P.8-P.9をご参照ください。パンフレットは風間浦バイパスのホームページからご覧になれます。